

水稻生産者の皆様へ

# 高温年に生産された水稻種子の 取扱い留意点について

高温条件下で生産された水稻種子は、休眠が深くなる場合があります。  
発芽や苗立ちが不揃いになりやすいため、以下のことに留意し、  
健苗育成につなげましょう。

## 発芽、苗立安定のための重点事項



### 1 10℃未満での低水温浸種を行わない

種子消毒時の薬液温度や浸種中の水温が 10℃未満だと、薬剤効果が十分得られなかったり、発芽率の低下の原因となる。種子消毒時の薬液温度および浸種中の水温は **10 ~ 15℃** を目安に保つ。



### 2 浸種は十分な期間行う

浸種期間の目安は、水温 × 日数の積算が **100 ~ 120℃** 程度 になる期間だが、休眠が深い品種（コシヒカリやひとめぼれ）は 1 ~ 2 日延長し、催芽後ハト胸状態になったことを確認してから播種する。



### 3 病害対策はしっかり行う

発芽が不揃いになることで、出芽までの時間が例年よりもかかり、苗立枯病やもみ枯細菌病などが発生しやすくなる。床土消毒の実施や出芽時の温度管理（**28 ~ 30℃** の遵守）で病害対策を徹底する。

「安定した発芽・苗立ちのためのチェックリスト」は裏面へ⇒

# 安定した発芽・苗立ちのための チェックリスト



## Check 01 資材の準備

- 育苗資材の消毒をする。(イチバンなど)
- 温度計・水温計を用意し、育苗期間中に確認できるよう設置する。

## Check 02 種子の比重選

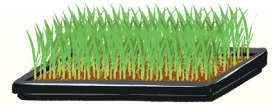
- 硫酸を使い、右表を参考に実施する。
- 浮いた種籾は廃棄する。
- 実施後の種籾は水洗いして硫酸を流す。

表 比重選の硫酸濃度

	比 重	水 10ℓ あたり 硫酸の量
うるち	1.13	2.9 kg
も ち	1.08	1.9 kg

## Check 03 種子消毒(化学農薬)

- 種子消毒時の水温は **10 ~ 15℃** を目安にする。
- 種籾の量は網袋の7分目程度とし、詰めすぎないようにする。
- 種子消毒中は2~3回ゆっくり攪拌し、処理ムラをなくす。
- 薬効を保つため、種子消毒後の種籾は水洗いしない。



## Check 04 浸 種

- 浸種時の水温は **10 ~ 15℃** を目安にする。
- 浸種開始の2日間は薬効安定のため、水交換をしない。
- 浸種3日目以降は酸欠防止のため、2日に1回を目安に水を交換する。
- 浸種期間は水温 × 日数の積算が **100 ~ 120℃** を目安に行う。

表 浸種時の水温と期間の目安

水温	10℃	13℃	15℃
日数	10日	8日	7日

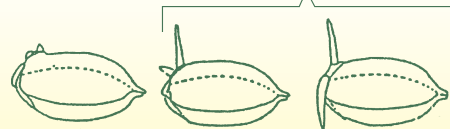


## Check 05 催 芽

- 催芽時の温度は **28 ~ 30℃** にする。
- ハト胸状態に芽を揃える。

ハト胸状態

伸ばしすぎ



## Check 06 出 芽

- 床土の消毒をする。
- 出芽時の温度は **28 ~ 30℃** にする。

